

大規模講義における「ロイロノート・スクール」を 活用した意見交流の方法 —コロナ禍の「児童学概論」での実践から—

佐々木恵理

岐阜女子大学 文化創造学部

(2021年11月11日受理)

How to Exchange Opinions using “Loilo Note School” in Large-Scale Lectures : From the Lesson Practice in the COVID-19 Pandemic “Introduction to Paedology”

Department of Cultural Development, Faculty of Cultural Development,
Gifu Women's University, 80 Taromaru, Gifu, Japan (〒501-2592)

SASAKI Eri

(Received November 12, 2021)

要 旨

本研究では、大規模講義で「ロイロノート」を活用した授業実践を行ったので報告する。加えて、大規模講義の中で、意見交流に「ロイロノート」を活用することで学生がどのような利点を感じているかについても検討した。その結果、ロイロノート利用時の学生にとっての利点は、【感染対策】【ロイロノートの操作】【意見交流の方法】【学習内容の定着】【今後の活用】の5つの側面で整理された。特に、【学習内容の定着】に関する記述の割合が高く、自分ペースでゆっくり閲覧することができたり、見返すことができること、多くの人の意見を効率よく知ることができ、自分の知識を広げることに役立っていると感じていた。また、話すことが苦手でも文字で伝えることで自分の意見を伝えやすいという利点を感じていることがわかった。

キーワード：大規模講義、ロイロノート・スクール、大学生、コロナ禍

I. 問題と目的

履修者が100名以上になる大規模講義においては、講義型の授業展開では、学生は受け身となることが多く、授業者としては、学生が主体的・能動的に学ぶ工夫が必要である。しかし、コロナ禍の大規模講義においては、

これまでのようにグループディスカッション等を取り入れることが困難である。

一方、「ポスト・コロナにおける新たな社会に向けて、デジタル技術を有効活用し、オンライン・リモートによる学びとキャンパスにおける対面の学びを効果的に組み合わせた新たな講義、実験・実習等の創出により、教

育の質の向上を実現すべきである」ことが言われている(文部科学省, 2020 a)。コロナ禍の中でも、感染対策を講じつつ、学生が納得できる質の高い教育の提供が不可欠である(文部科学省, 2020 b)。

そこで、本実践では、学習支援システムとして、株式会社 LoiLo 社のロイロノート・スクール(以下、ロイロノート)を利用した。ロイロノートを用いた授業実践は、小・中・高校・大学とそれぞれの年代で用いられている。大学でも、大規模講義に活用される事例(久保田, 2017)や実習授業で活用した事例(植田・富田・勝又, 2020)、語学系授業での活用事例(許・千賀・山口, 2020)などが報告されている。

本学では、2021年度前期は、感染予防対策を行った上で対面授業が実施されてきた。

本稿では、感染リスクに配慮した対面授業の中で、ロイロノート・スクール(以下、ロイロノート)を活用した授業実践を行ったので報告する。その際、大規模講義の中で、意見交流にロイロノートを活用することで学生がどのような利点を感じているかについても検討することを目的とした。

II. 方法

1. 調査対象者

本学で児童学概論を受講した女子学生120名の学生を対象とした。そのうち、4回以上の欠席者を除くと118名が分析対象となった。内訳は、1年次116名、3年次2名であった。

2. 実施時期

2021年4月～8月にかけて講義を行った。

また、受講者全員を対象に、第8回講義後(2021年6月10日)にGoogleformを利用し

たアンケート調査を実施した。有効回答数は116名であった。

この時期は、本学においては、感染対策を行いながら対面講義が実施されていた。しかし、本学がある岐阜県においては、第4波の影響をうけ、2021年4月下旬～6月下旬にかけ「緊急事態宣言」及び「まん延防止等重点措置」が適用されていた時期である。

3. 講義の概要

本研究で対象とした講義は、「児童学概論」であった。本講義は、「保育学」「教育学」「児童心理学」「児童学」など、児童に関する学問分野の知識を踏まえながら、子どもについて考えを深めること、また児童学における基礎的課題を現実の生活と関連して捉え、子どもについての理解を深めることを目的としている。また、子どもに関わり援助することに役立つ知識や将来子どもを育てることに役立つ知識を身につけることを到達目標としている。

4. ロイロノートの導入

第2回講義からロイロノートを利用した。第1回～第2回に受講者学生分のログインIDを発行し、スマートフォンやiPadなどのタブレット端末で講義時にログインして利用できるように促した(図1)。

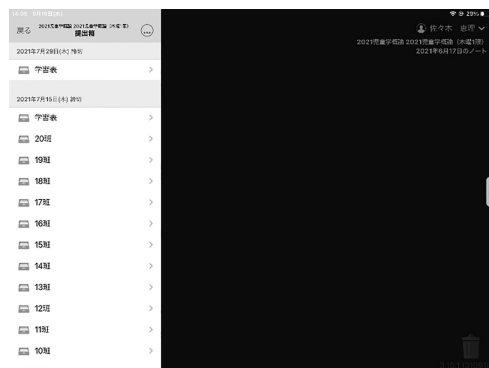


図1 ロイロノート操作画面



図2 講義時の様子

本講義は、大学1年を対象とし前期に開講している(図2)。ロイロノートを高校時に活用したことがある学生は、いなかった。そのため、一回の講義に一つ新しい方法を伝えるという形で、様々な機能を一緒に使うのではなく、順を追って、活用できるように説明した。

また、1名のみ、スマホアプリの保護者による年齢制限でインストールできないとの理由から、各回 iPad を貸し出し対処したが、通常どおり活動に参加することができた。

講義内で利用したロイロノートの機能は、以下のとおりである。

- ・各回、写真機能を使い、手書きで書いた「学習表」を撮影し、提出箱に提出する。
- ・講義内で講師の問いかけや課題に対し、意見や考え、結果をカードに記入し、提出箱に提出したものを回答共有する。(例：出身地域についての子育て支援について調べる)(図3)
- ・メッセージ機能を使い、授業担当者宛にメッセージを送信する。
- ・(発表閲覧後)メッセージ機能を使い、他の受講者宛にメッセージを送信する。
- ・webカードを利用し、講師が提供したwebカードからwebページを開いたり、アンケートに答えたりする。

特に、第7回・第8回では、子どもをテーマとした中間課題に対し、調べてきた内容を、写真やカードを利用して提出箱に提出し、「回答共有」することで、指定された班のメンバー(6名)の課題内容を閲覧し、自分自身の意見をコメントカードで交流を行った(図4)。回答共有は、次の講義時まで続け、自宅でも確認ができるようにした。第8回講義後に、アンケート調査を行った。



図3 教員確認用画面



図4 学生が確認できるスマートフォン上の画面

5. ロイロノート導入時に予想された問題点への配慮

ロイロノートを利用することの意義について導入時に説明を行った。従来までは、ディ

スカッション式の方法によるグループワークを行っていたことや、一方でコロナ感染拡大下において、実際の研究発表の場である学会もオンライン開催になっているなどの意味づけを行った。

また、コメントの交流や利用にあたっては、顔や名前が分からない状態で、相手に意見やコメントを送ることになる人が多数である。それぞれが安心して発表できるように集団づくりに十分配慮した声かけを行い、コメント機能利用時に相手の気持ちを十分考え意見を述べることなどの留意点について説明をした。

さらに、コメント機能については、講師に履歴が残ること、不適切な発言、傷つくような発言があった場合には、すぐに講師に申し出ることを十分伝えた。その結果、講義全体を通してそのような不適切な発言の相談や申し出はなかった。

6. アンケート調査内容

以下の6つの質問項目について回答を求めた。

(1) 他の人の発表をロイロノートを用いて閲覧することは、参考になりましたか？(1. とても参考になった～5. まったく参考にならなかった) 5件法

(2) 子ども自身のことや「遊び」に関して、自分以外の他者の考えを知ることができましたか？(1. とても知ることができた～5. まったく知ることができなかった) 5件法

(3) 「ロイロノート」を用いたことによる問題点、不具合が起きましたか？(1. はい 2. いいえ) 2件法

(4) 「ロイロノート」を用いた際に起こった問題点や改善点があったら教えてください。(自由記述)

(5) 「ロイロノート」を用いて、発表交流を

した感想を教えてください。良かった点、役に立った点があれば、それらを教えてください。(自由記述)

(6) もし、もう1回発表交流があるとしたら、あなたはどちらを選択しますか？(1. 対面による通常のグループワーク, 2. ロイロノートなどのICT機器を用いたグループワーク, 3. どちらでもよい, 4. どちらもやりたくない) 4件法

アンケート調査を行うにあたり、実施前に、本人が特定されない形でデータが数値化されること、回答内容が成績評価とは一切関係がないこと、回答は自由意志によるものであることを口頭で説明し、同意を得た。

III. 結果と考察

1. アンケートの質問項目別結果

(1) 他の人の発表の閲覧が参考になったか
他の人の発表をロイロノートを用いて閲覧することは、とても参考になった95名(82.6%)、参考になった18名(15.7%)、どちらでもない1名(0.9%)、参考にならなかった1名(0.9%)、まったく参考にならなかった0名であった(図5)。

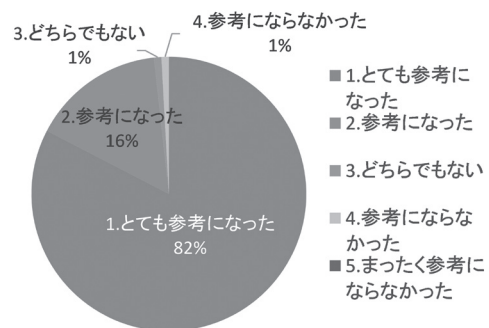


図5 他の人の発表をロイロノートを用いて閲覧することは参考になったか

(2) 他者の考えを知ることができたか

テーマとしている子ども自身のことや学修内容の「遊び」に関して、自分以外の他者の

考えを、とても知ることができた99名(86.5%), 知ることができた16名(13.9%)であった。それ以外の選択肢を選んだ者はいなかった。このことから、多数が受講しているということを利用して、口頭による意見交流を行わなくても、ロイロノートを利用することで多くの意見に触れ、他者の考えを十分知ることができたと考えられる。

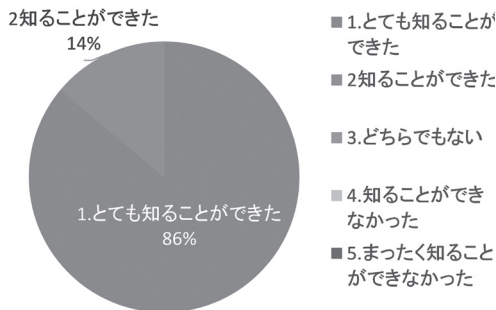


図6 自分以外の他者の考えを知ることができたかどうか

(3)「ロイロノート」を用いたことによる問題点や不具合が起こったかどうか尋ねたところ、起こった4名(3.5%), 起こらなかった111名(96.5%)であった。

そのうち、「ロイロノート」を利用した問題点では、スマートフォンの機種により「フリーズしてしまう」「文字が全て平仮名になってしまう」等の操作面での不具合であった。

(4)発表交流の方法に対する個人の志向を尋ねたところ、ロイロノートなどのICT機器を用いたグループワークを選択した人が90名(77.6%)で、対面による通常のグループワークを希望した人は3名(2.6%)であった(図7)。初学年であることや、コロナ感染拡大下であるという状況を踏まえると、学生にとっては、対面での通常のグループには抵抗感があり、口頭で交流を行わなくてもグループワークや発表交流ができることを望んでいる人が多い傾向がうかがわれた。

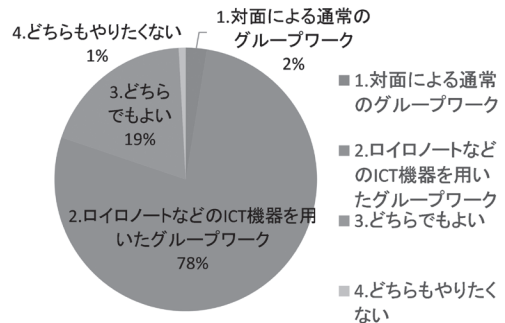


図7 今後の発表交流の希望選択

2. 学生からみたロイロノート活用の利点

学生が記述したロイロノートを利用して良かった点、役に立った点の記述を求めたところ、116名から回答を得た。それらについて、以下のような手順で分類を行った。

まず、それぞれの記述を、意味内容が一つの命題になるような文(節、句)になるように区分したところ138の意味内容となった。

次に、意味内容が共通もしくは類似する語句に注目して、同様の意味のまとまりとなるように分類したカテゴリーを生成した。カテゴリーの分類は、著者1名と研究法を学ぶ学生1名の計2名で分類を行った。その結果、20のカテゴリーを生成した。

さらに、意味内容が類似するカテゴリーに注目し、複数のカテゴリーにあてはまるような上位カテゴリーを抽出した。ロイロノート利用時の学生にとっての利点は、【感染対策】

【ロイロノートの操作】【意見交流の方法】【学習内容の定着】【今後の活用】の5つの上位カテゴリーを抽出した。これらの結果を表1に示した。(以下、上位カテゴリーを【 】、カテゴリーを〈 〉で示す。そこに含まれる記述例を「 」で示す。)

表1 大規模講義における学生からみたロイロノート活用の利点

上位カテゴリー	カテゴリー	具体的な記述例	記述数	(比率%)
感染対策	感染対策で安心して講義を受けることができた	・この時期に会話するのは危ないので、発表や課題提出などをロイロノートを用いてくださって安心して授業に取り組めた。 ・コロナ対策として飛沫感染が抑えられていいことだらけだったと思った。	7	(5.1%)
	簡単に操作がしやすかった	・相手に意見を送ることが簡単にでき、とても使いやすかった。	8	(5.8%)
ロイロノートの操作	他の人の発表をスムーズに閲覧ができた	・分かりやすく、スムーズに他の人の発表を見ることができたのがよかった。 ・人に説明しなくても、資料をみることで学習できるのがいいなと思った。	5	(3.6%)
	効率的に学習ができた	・ケータイ1つで沢山のカードを見ることができ、とても効率がいいなと思った。 ・全員の意見を短時間でみることができ、効率よく子どものいろいろな点について学習することができてよかった。	4	(2.9%)
	写真や表、グラフなどが活用できるため分かりやすかった	・簡単に送ることができ写真やテキストを活用することでみやすいノートを作ることができ、わかりやすくまとめることができた。 ・グラフや表などもみることができたのでわかりやすかった。	5	(3.6%)
意見交流の方法	簡単に意見交流ができた	・一緒の場になくても交流ができる点が素晴らしいなと思った。 ・発言しなくてもカードを送り合うことで、他の人の意見を知ることができて良かった。	9	(6.5%)
	多くの人と意見交流ができた	・交流を多くの人としやすかった。 ・いろいろな人の考えが聞けたし、いろいろ知ることができてよかった。	8	(5.8%)
	普段関われない人と意見交流ができた	・色々な学科の人たちと、ロイロノートを通して交流できたので良かった。	5	(3.6%)
	先入観を持たずに意見交流ができた	・交流する相手が知らない人だったからこそ、先入観を持つことなく、純粋に研究内容を見ることができた。	1	(0.7%)
	緊張せずに意見を伝えることができた	・直接だと初めて会って話さずらくてもロイロノートだと緊張もしないので伝えやすかった。 ・人との交流が苦手なため、とても交流が行いやすかった。	9	(6.5%)
	自分の意見を文字でしっかり伝えることができた	・口では伝えることが難しいことも書いて送るということにより、伝えやすかった。 ・文字で伝えられるからしっかり思ったことを伝えられた。	6	(4.3%)
	自分の発表に対しどのように感じてくれたかを知ることができた	・意見交換ができるので同じグループのメンバーが、自分の調べたことに対してどのように感じてくれたのかを知ることができて良かった。 ・自分が書いたレポートをこんなふうにしてくれたんだと思って、頑張ってたよかったと思えた。	4	(2.9%)
学習内容の定着	コメントのやりとりが楽しかった	・交流してくれた班の子達が皆優しいコメントをくれて交流が楽しくなった。	5	(3.6%)
	自分のペースでゆっくり閲覧することができたり、見返すことができた	・自分のペースで人の発表を見ることができたので、気づかなかったところを何度も読み返すことができ、とても役にたった。 ・普通の発表とは違い一つひとつ見ることができたので感想が書きやすかった。	20	(14.5%)
	多くの人の内容を閲覧することができて参考になった	・他の人のレポートを見ることができとても参考になった。 ・全ての人の意見が見れると、比較できるし、参考になるので、良いと思った。	13	(9.4%)
	講義外の時間にもいつでも学ぶことができた	・授業時間外にゆっくり発表を見ることができ、考えを深められたので良かった。 ・他の人のレポートも閲覧することができ、時間のある時に見て、知識を深めることができた。	5	(3.6%)
今後の活用	自分の知識を広げたり、視野を広げることができた	・今まで知らなかったことや、一人での学習では着目しないようなことまで新しく知ることができて良かった。 ・自分だったら調べようと思わないことを他の人が調べていて、視野が広がったと思った。	14	(10.1%)
	学習内容の記述	・他の人の課題を見て、全く知らなかった子どものことについて分かった気がする。	4	(2.9%)
	次回のレポート作成に役立つ	・直接的な意見交流が難しい状況でも、相互に発表し、感想をもらうことで、伝え方やレイアウトなどを考慮することができるのでこれからの作成に活かせると思った。	2	(1.4%)
その他	ロイロノートの使い方をもっと学びたい	・使い方をもっと学べたらもっといい交流ができるのではないかと考えた。	2	(1.4%)
	その他	・ICTを少しだけ使いこなすことができた。	2	(1.4%)
合計			138	(100.0%)

【感染対策】に関する記述数は7 (5.1%) 抽出され、〈感染対策で安心して講義を受けることができた〉の1カテゴリーから構成された。学生らは、間隔をあけて座席を座る等教室内の感染対策を行っているものの、大規模講義においては、数名が同時に話す等のグループワークは十分な対策が必要であり、抵抗感が大きいものと考えられる。学生が安心して講義を受講できることは、講義環境として必要不可欠な点である。

【ロイロノートの操作】に関する記述数は22 (15.9%) 抽出され、〈簡単に操作がしやすかった〉、〈他の人の発表をスムーズに閲覧ができた〉、〈効率的に学習ができた〉、〈写真や表、グラフなどが活用できるため分かりやすかった〉の4カテゴリーから構成された。学生にとってスマートフォンやタブレット端末を利用することは、非常に簡便であり取り組みやすく、効率よく学習を進めていけると感じていることが明らかになった。また、写真やグラフなどを手元で活用することができるため、講義内容の理解に役立つものと考えられる。

【意見交流の方法】に関する記述数は、47 (34.4%) 抽出され、〈簡単に意見交流ができた〉、〈多くの人と意見交流ができた〉、〈普段関われない人と意見交流ができた〉、〈先入観を持たずに意見交流ができた〉、〈緊張せずに意見を伝えることができた〉、〈自分の意見を文字でしっかり伝えることができた〉、〈自分の発表に対してどのように感じてくれたかを知ることができた〉、〈コメントのやりとりが楽しかった〉の8つのカテゴリーから構成された。このことから、意見交流の場面では、席を移動しなくてもカードを送り合うことで、他の人の意見を知ることができたり、より多くの人や普段関わりを持たない人とも意見交流ができたことを学生は良かったと感じ

ていることが明らかになった。また、意見をコメント機能や発表資料を通して伝える際には、口頭で伝えるよりも文字の方伝えやすく、自分の思いをしっかり伝えることができると感じていた。このように、文字を書くことに苦手を抱えていたり、人との交流に対して不安を持ちやすい場合に、特に有用であったと考えられる。

【学習内容の定着】に関する記述数は、56 (40.5%) 抽出され、〈自分のペースでゆっくり閲覧することができたり、見返すことができた〉、〈多くの人の内容を閲覧することができて参考になった〉、〈講義外の時間にいつでも学ぶことができた〉、〈自分の知識を広げたり、視野を広げることができた〉、〈学習内容の記述〉の3カテゴリーから構成された。5つの上位カテゴリーのうち、【学習内容の定着】の記述数の割合は最も高かった。含まれるカテゴリーを見てみると〈自分ペースでゆっくり閲覧することができたり、見返すことができた〉は記述数が20 (14.5%)、〈自分の知識を広げたり、視野を広げることができた〉は記述数が14 (10.1%)、〈多くの人の内容を閲覧することができて参考になった〉は記述数が13 (9.4%) の順に多かった。

これらは、口頭での発表や口頭での意見交流の形式では得られない利点である。興味・関心やそれぞれの意欲・能力に応じて、自分の学びのペースで何度も見直すことができることや、多くの人数が受講しているということを活用して、今まで考えが至らなかった発想や意見に触れることが参考になり、刺激的な学びにつながったものと考えられる。

【今後の活用】に関する記述数は、4 (2.8%) 抽出され、〈次回のレポート作成時に役立つ〉、〈ロイロノートの使い方をもっと学びたい〉の2カテゴリーから構成された。多くの発表形式やまとめ方をロイロノートで

参照できたことで、自分に取り入れていきたい方法を見出すことができ、今後の学習に役立てることができると考えられる。

IV. 総合考察

人前で自分の考えを伝えることができるスキルについては、コロナ禍以前の講義では、大学生活の一つのスキルとして重視してきた。しかし、昨今、コミュニケーションが苦手な学生や人前で発表することを必要以上に不安に感じてしまう学生も少なからずいる。そのような不安を克服させるように働きかけ、講義内で力をつけていくことも1つの方法であると感じる一方、そのような苦手なスキルがあったとしても、このロイロノートを用いることによって、苦手な側面とならずに、学習内容に取り組めることが明らかになった。スマホでのタイピングや入力が苦手であるなどといった感想記述はなく、この方法自体に苦手さや取り組みに不安さを示した学生は今回の取り組みではいなかったことも一つ大きな成果であろう。

また、自分の意見をしっかりと文字で相手

に伝えることができたという意見があった。文字として読み返しができることで、自分の考えとの相違も考えなおすことができ、学習に関する自分自身の考えを深めることができたものと考えられる。

引用文献

- 久保田裕美 (2017). 大人数講義にスマートフォンを活用した双方向性授業の展望と課題 大学教育と情報, 2, 14-16.
- 許挺傑・千賀喜史・山口祥平 (2020). タブレット (iPad) と授業支援システム ロイロノート・スクールを用いた授業の実践報告—語学系の授業と実習系の授業を中心に— 大分県立芸術文化短期大学研究紀要 57, 209-231.
- 文部科学省 (2020a). コロナ新時代に向けた今後の学術研究及び情報科学技術の振興方策について 科学技術・学術審議会学術分科会
- 文部科学省 (2020b). 大学等における新型コロナウイルス感染症への対応状況について
- 植田敏充・富田信一・勝又美紀 (2020). 食品加工実習における「ロイロノート・スクール」の活用 玉川大学農学部研究教育紀要, 4, 33-35.